

モノクロプー

いつもプープー言ってるわたし

ホシノ アツコ。著

少し心が乾いて疲れている時、手に取った絵本です。なぜか、物心ついたときからプタの絵やグッズが好きだったこともあり、絵のかわいらしさに惹かれて購入しました。物語は、いつも不平、不満を言っている白ぶたの「わたし」と、「わたし」が好きな黒ぶたの「彼」のお話です。彼と一緒にいるのは楽しいけど、彼の些細な言葉や言動に傷つき、彼のわたしに対する想いに疑念を持つわたしは、いつもプープー不平、不満を言っています。しかし、ある時、自分の本当の気持ちを話したことが無いことに、わたしは気付きます。そこで、勇気を出して言ってみます。すると、ふっと心が軽くなり、幸せな気持ちになった……。物語は、そこで終わるのですが、私は、この短い物語に、とても大切なメッセージが込められていると思いました。大人になるにつれ、不平、不満が心の中で渦巻き、溜まっていく一方で、嫌われたくないという想いのもと、本当の言葉を発することに躊躇し、本心を隠し、嘘をつく。嘘はウソを生み、猜疑心を発生させ、仮面を被った者同士が、表面的な笑顔を取り繕いながら会話し、付き合う。改めて文字で書くとは本当にイヤでも、日々行っていること。自分が無くなる前に、自分の本心に気付き、本当の言葉で、付き合って行きたい。また、一方で、本心を言って、受け止めてくれる人と一緒にいれることが大切で幸せなことなんだ、と思いました。

C
Y



主婦と生活社

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞